

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

高 大 医 医 発 第 3 号
令和 4 年 10 月 5 日
開設者名 国立大学法人高知大学長 櫻井 克年

高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 3 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
氏名	国立大学法人高知大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

高知大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒783-8505
高知県南国市岡豊町小蓮185番地1 電話(088)-866-5811

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有					
内科と組み合わせた診療科名等						
	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			11リウマチ科
診療実績						
1呼吸器内科、4腎臓内科、6血液内科、7内分泌内科、8代謝内科、10アレルギー疾患内科またはアレルギー科、11リウマチ科については「内科」で提供。5神経内科については、「脳神経内科」で提供						

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
8小児外科については「外科」で提供							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
本院は開院時より歯科医療機関として認可を受け、適切な体制のもとに歯科診療を行っている。現在、常勤歯科医師6名、非常勤歯科医師6名が従事しており、令和3年度は1日あたり外来患者52.5人、入院患者7.9人の歯科診療を行っている。							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	頭頸部外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	脳神経内科
6	緩和ケア内科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30	0	0	0	583	613

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	174	189	341.8
歯科医師	6	6	10.2
薬剤師	34	0	34
保健師	0	0	0
助産師	13	1	14
看護師	547	66	591.5
准看護師	0	1	1
歯科衛生士	0	5	5
管理栄養士	9	3	12

職種	員数
看護補助者	36
理学療法士	14
作業療法士	5
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	20
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	31

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	58
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	12
その他の技術員	13
事務職員	158
その他の職員	51

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	44	眼科専門医	9
外科専門医	24	耳鼻咽喉科専門医	7
精神科専門医	8	放射線科専門医	12
小児科専門医	19	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	10	整形外科専門医	19
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	13
産婦人科専門医	13	救急科専門医	5
		合計	203

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (花崎 和弘) 任命年月日 令和 4 年 4 月 1 日

医療安全管理委員会委員 令和4年4月1日～

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	427.7 人	7.9 人	435.6 人
1日当たり平均外来患者数	976.2 人	52.5 人	1028.7 人
1日当たり平均調剤数		676	剤
必要医師数		106	人

必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	15	人
必要(准)看護師数	253	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	254.442 m ²		病床数	12 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 105.85 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	6 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	582 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動血球計数装置 塗沫標本作製装置 血液凝固測定装置 全自動生化学分析装置 自動免疫化学測定装置 血液ガス分析装置 血糖測定装置 ヘモグロビンA1C測定装置 酵素免疫測定装置 肝炎ウイルス関連検査			
細菌検査室	142 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 炭酸ガス培養装置 孵卵器 自動細菌検査装置 自動血液培養装置 嫌気培養装置 安全キャビネット 高圧蒸気滅菌器			
病理検査室	226 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー			
病理解剖室	54 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 陰圧室、解剖台			
研究室	5,002 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 流し台、実験台			
講義室	283 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	264 人
図書室	974 m ²	鉄筋コンクリート	室数	8 室	蔵書数	13万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78	%	逆紹介率	75.1	%
算出	A: 紹介患者の数		10,279		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,260		人

根拠	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	1,426	人
	D:初診の患者の数	15,001	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
吉川 清志	土佐希望の家 医療福祉センター施設長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
中西 法貴	中西・高野法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	無	1
西脇 永敏	高知工科大学 環境理工学群 教授		学識経験を有する者	無	1
井上 正典	社会福祉法人杉の子会 理事		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2
瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院総合診療部 教授		学長が必要と認めた者	無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本院HPに公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当無し	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	61	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
2	筋萎縮性側索硬化症	23	62	下垂体前葉機能低下症	29
3	脊髄性筋萎縮症	1	63	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
4	進行性核上性麻痺	18	64	アジソン病	1
5	パーキンソン病	60	65	サルコイドーシス	61
6	大脳皮質基底核変性症	4	66	特発性間質性肺炎	5
7	ハンチントン病	3	67	肺動脈性肺高血圧症	7
8	シャルコー・マリー・トゥース病	4	68	慢性血栓性肺高血圧症	11
9	重症筋無力症	59	69	リンパ脈管筋腫症	1
10	先天性筋無力症候群	2	70	網膜色素変性症	10
11	多発性硬化症/視神経脊髄炎	29	71	バッド・キアリ症候群	1
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	2	72	原発性胆汁性肝硬変	14
13	封入体筋炎	1	73	原発性硬化性胆管炎	4
14	多系統萎縮症	22	74	自己免疫性肝炎	14
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	46	75	クローン病	29
16	ライソゾーム病	8	76	潰瘍性大腸炎	57
17	副腎白質ジストロフィー	1	77	好酸球性消化管疾患	3
18	ミトコンドリア病	3	78	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	2
19	もよもや病	14	79	先天性ミオパチー	1
20	亜急性硬化性全脳炎	1	80	筋ジストロフィー	8
21	HTLV-1関連脊髄症	1	81	遺伝性周期性四肢麻痺	1
22	全身性アミロイドーシス	61	82	脊髄空洞症	4
23	神経線維腫症	11	83	遺伝性ジストニア	1
24	天疱瘡	13	84	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	1
25	表皮水疱症	2	85	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
26	膿疱性乾癬(汎発型)	2	86	前頭側頭葉変性症	4
27	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	87	ラスマッセン脳炎	1
28	高安静脈炎	6	88	結節性硬化症	2
29	巨細胞性動脈炎	9	89	先天性魚鱗癬	1
30	結節性多発動脈炎	17	90	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	10
31	顕微鏡的多発血管炎	15	91	特発性後天性全身性無汗症	1
32	多発血管炎性肉芽腫症	5	92	弾性線維性仮性黄色腫	1
33	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	93	ウィルソン病	5
34	悪性関節リウマチ	9	94	単心室症	1
35	パーシャー病	2	95	三尖弁閉鎖症	1
36	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	96	両大血管右室起始症	1
37	全身性エリテマトーデス	148	97	エプスタイン病	1
38	皮膚筋炎/多発性筋炎	89	98	急速進行性糸球体腎炎	5
39	全身性強皮症	87	99	抗糸球体基底膜腎炎	1
40	混合性結合組織病	30	100	一次性ネフローゼ症候群	36
41	シェーグレン症候群	22	101	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2
42	成人ステル病	12	102	紫斑病性腎炎	3
43	再発性多発軟骨炎	3	103	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
44	ベーチェット病	42	104	オスラー病	2
45	特発性拡張型心筋症	30	105	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
46	肥大型心筋症	14	106	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1
47	再生不良性貧血	10	107	フェニルケトン尿症	2
48	自己免疫性溶血性貧血	1	108	家族性地中海熱	1
49	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	109	強直性脊椎炎	16
50	特発性血小板減少性紫斑病	19	110	軟骨無形成症	1
51	原発性免疫不全症候群	2	111	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
52	IgA腎症	37	112	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
53	多発性嚢胞腎	45	113	後天性赤芽球癆	1
54	黄色靱帯骨化症	15	114	IgG4関連疾患	16
55	後縦靱帯骨化症	71	115	レーベル遺伝性視神経症	1
56	広範脊柱管狭窄症	5	116	好酸球性副鼻腔炎	28
57	特発性大腿骨頭壊死症	35	117	特発性多中心性キャッスルマン病	5
58	下垂体性ADH分泌異常症	8	118		
59	下垂体性PRL分泌亢進症	6	119		
60	クッシング病	3	120		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	117
合計患者数(人)	1,637

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・後発医薬品使用体制加算2
・特定機能病院入院基本料(一般7対1、精神13対1)	・病棟薬剤業務実施加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算2・イ及び4・イ
・診療録管理体制加算1	・入退院支援加算1・イ及び3、入院時支援加算、総合機能評価加算、地域連携診療計画加算
・医師事務作業補助体制加算2(25対1)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算(50対1)、夜間100対1急性期看護補助体制加算、夜間看護体制加算	・精神疾患診療体制加算1及び2
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・精神科急性期医師配置加算2・イ
・看護補助加算2(精神病棟)	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料1、早期離床・リハビリテーション加算、早期栄養介入管理加算、小児加算
・重症者等療養環境特別加算(個室及び2人部屋)	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・無菌治療室管理加算1及び2	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・放射線治療室管理加算(治療用放射性同位元素及び密封小線源による治療)	・新生児特定集中治療室管理料2
・緩和ケア診療加算(個別栄養食事管理加算)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2 プレイルーム・保育士等加算、無菌治療管理加算1および2、養育支援体制加算
・精神科リエゾンチーム加算	・看護職員処遇改善評価料67
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1及び指導強化加算	
・患者サポート体制充実加算	
・重症患者初期支援充実加算	
・報告書管理体制加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の「注11」に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・ウイルス疾患指導料	・薬剤管理指導料
・外来栄養食事指導料の注2および注3	・医療機器安全管理料1・2・(歯科)
・心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に掲げる遠隔モニタリング加算	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の「注2」
・糖尿病合併症管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇式注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	・持続血糖測定器加算(間歇式注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・外来緩和ケア管理料	・遺伝学的検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・染色体検査の注2(絨毛染色体検査)
・糖尿病透析予防指導管理料	・有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・婦人科特定疾患治療管理料	・精密触覚機能検査
・一般不妊治療管理料	・骨髓微小残存病変量測定
・生殖補助医療管理料1	・BRCA1/2遺伝子検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・下肢創傷処置管理料	・先天性代謝異常症検査
・院内トリアージ実施料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・夜間休日救急搬送医学管理料「注3」に掲げる救急搬送看護体制加算1	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来放射線照射診療料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算)	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・ニコチン依存症管理料	・国際標準検査管理加算
・療養・就労両立支援指導料の「注3」に掲げる相談支援加算	・遺伝カウンセリング加算
・開放型病院共同指導料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・がん治療連携計画策定料	・胎児心エコー法
・ハイリスク妊産婦連携指導料1・2	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ヘッドアップティルト試験

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工臓器検査、人工臓器療法	・歯科口腔リハビリテーション料2
・脳波検査判断料1	・通院・在宅精神療法・注9に掲げる療養生活継続支援加算
・単線維筋電図	・精神科作業療法
・神経学的検査	・認知療法・認知行動療法1
・補聴器適合検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・小児食物アレルギー負荷検査	・医療保護入院等診療料
・内服・点滴誘発試験	・口腔粘膜処置
・口腔細菌定量検査	・口腔粘膜血管腫凝固術
・画像診断管理加算1・2	・レーザー機器加算(医科)(歯科)
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・硬膜外自家血注入
・冠動脈CT撮影加算	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・心臓MRI撮影加算	・人工臓器3・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・乳房MRI撮影加算	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・小児鎮静下MRI撮影加算	・磁気による膀胱等刺激法
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・手術用顕微鏡加算
・外来化学療法加算1	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・連携充実加算	・CAD/CAM冠
・無菌製剤処理料	・手術時歯根面レーザー応用加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・歯科技工加算1及び2
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・センチネルリンパ節加算
・運動器リハビリテーション料(I)	・自家脂肪注入
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・がん患者リハビリテーション料	・骨移植術(軟骨移植術を含む)『同種骨移植(非生体)[同種骨移植(特殊なものに限る)]』
・リンパ浮腫複合的治療料	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・集団コミュニケーション療法料	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・椎間板内酵素注入療法	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・腫瘍脊椎骨全摘術	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳がんセンチネルリンパ節加算1)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(乳がんセンチネルリンパ節加算2)
・内視鏡下脳腫瘍生検術および内視鏡下脳腫瘍摘出術	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)(過活動膀胱)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・羊膜移植術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・経皮的中隔心筋焼灼術
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・人工中耳植込術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術・人工中耳用材料	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・耳管用補綴材挿入術	・経皮的下肢動脈形成術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	・腹腔鏡下胃切除術及び噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下肝切除術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下痔腫瘍摘出術及び腹腔鏡下痔体尾部腫瘍切除術	・輸血管理料 I
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・輸血適正使用加算
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯周組織再生誘導手術
・膀胱水压拡張術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯根端切除手術の「注3」
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・麻酔管理料 (I)
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・麻酔管理料 (II)
・人工尿道括約筋植込・置換術	・放射線治療専任加算
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・画像誘導密封小線源治療加算
・臍帯穿刺	・保険医療機関間の連携による病理診断
・体外式膜型人工肺管理料	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10 部手術の通則の16に掲げる手術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10 部手術の通則の19 に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)	・口腔病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10 部手術の通則の19 に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に対する乳房切除術)	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科矯正診断料	
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高度肥満症に対する動脈塞栓術の確立-外科手術との治療効果・合併症の比較-	山上 卓士	放射線医学	2,080,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
局所進行非小細胞肺癌に対する肺機能画像を用いたオーダーメイド放射線治療法の開発	木村 智樹	放射線医学	1,950,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
MRリンパシステムイメージングに向けたナノ材料-環状錯体複合型造影剤の開発	松本 知博	放射線医学	910,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
慢性外傷性脳症の予兆を示す脳代謝異常の解明	岩佐 瞳	放射線医学	1,170,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
老化に伴う慢性痛発症における脳内神経炎症の役割と治療応用への可能性の検討	河野 崇	麻酔科学・集中治療医学	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
神経ステロイドを用いた術後せん妄に対する新規治療戦略と作用機序の解明	青山 文	麻酔科学・集中治療医学	1,560,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ICU患者におけるタンパク質量と非窒素カロリーのバランスおよび運動予後の検討	勝又 祥文	麻酔科学・集中治療医学	520,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
1型自己免疫性膵炎における自然免疫の役割と線維化のメカニズム	内田 一茂	消化器内科学	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	内田 一茂	消化器内科学	500,000	補委 九州大学
浸潤・転移抑制作用を有する膵癌に対する新規核酸化合物の研究開発	谷内 恵介	消化器内科学	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
術前の段階で術後予後を予測する膵癌予後予測マーカーの臨床応用	小笠原 光成	消化器内科学	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
膵癌細胞の浸潤に関与する糖蛋白質の膵癌診断マーカーへの応用	吉岡 玲子	消化器内科学	1,430,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
NASH発症におけるRAGE発現先進のメカニズム解明と肝線維化マーカー開発	廣瀬 享	消化器内科学	780,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
腎線維化に着目したAKIからCKD移行予防への新規治療戦略の開発	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	2,080,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
慢性腎臓病(CKD)に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	900,000	補委 島根大学
2型糖尿病における分岐鎖アミノ酸異化経路のインスリン感受性低下における役割の解明	藤本 新平	内分泌代謝・腎臓内科学	1,690,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ノンコーディングRNAとエクソソーム機能解析から腎臓病の新規治療法を開発する	堀野 太郎	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
IgG4関連疾患の画像診断・治療評価法および新規バイオマーカーと予後因子の探索	谷口 義典	内分泌代謝・腎臓内科学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病における肝臓マンノース利用障害	天野 絵梨	内分泌代謝・腎臓内科学	1,560,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
KL-6発現マウスを用いた膠原病肺モデルにおける新規バイオマーカーの動態解析	窪田 哲也	呼吸器・アレルギー内科学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	窪田 哲也	呼吸器・アレルギー内科学	400,000	補委 富山県衛生研究所
p53シグナルの機能的ヒエラルキー変化による悪性リンパ腫の分子標的治療耐性の解明	小島 研介	血液内科学	1,170,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
B細胞リンパ腫における新しいCD20陰性化機序の解明	谷口 亜裕子	血液内科学	910,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
特発性心筋症に関する調査研究	北岡 裕章	老年病・循環器内科学	300,000	補委 九州大学
アミロイドーシスに関する調査研究	北岡 裕章	老年病・循環器内科学	200,000	補委 福井大学

新しい診断戦略を用いた老人性全身性アミロイドーシスの多施設登録研究	北岡 裕章	老年病・循環器内科学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Sigma 1受容体リガンドによる末梢動脈疾患に対する新規治療法の開発	野口 達哉	老年病・循環器内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
深部脳電気刺激を用いた人工圧受容器反射システムの開発	弘田 隆省	老年病・循環器内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬における表皮メラノサイトの解析	佐野 栄紀	皮膚科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬発症におけるランゲルハンス細胞の役割:遊走および抗原提示についての検討	中島 喜美子	皮膚科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬に併発するアトピー性皮膚炎・湿疹の病態解明	中島 英貴	皮膚科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
表皮角化細胞の増殖分化を制御する核タンパク質Ahedの分子機能の解明	高石 樹朗	皮膚科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
色素細胞に対するZEB2の役割	寺石 美香	皮膚科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
乳幼児期低量紫外線反復暴露のアトピー性皮膚炎発症への影響	山本 真有子	皮膚科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
顕性遺伝型栄養障害型表皮水疱症へのCRISPR-Cas3の治療応用	森坂 広行	皮膚科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
幼少期の摂食問題と精神神経発達障害:スウェーデンと日本に於けるコホート調査	藤枝 幹也	小児思春期医学	4,550,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
日本人若年者に好発する木村病(軟部好酸球肉芽腫)の病因および病態の解明	藤枝 幹也	小児思春期医学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
重症多形漏出性紅斑に関する調査研究	藤枝 幹也	小児思春期医学	1,000,000	補委	奈良県立医科大学
3大認知症の潜在性併存診断とアミロイド排除による正常圧水頭症の長期予後改善研究	數井 裕光	神経精神科学	4,160,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
認知症の家族のための「パーソナルBPSDケア電子ノート」と「疾患別認知行動療法プログラム」の開発と効果検証のための研究	數井 裕光	神経精神科学	2,800,000	補委	大阪大学
認知症早期診断のスクリーニング検査としての嗅覚検査に関する研究	檜林 哲雄	神経精神科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
「前頭葉機能に注目した自動車運転能力評価法の確立と事故予測への適用」を目指す研究	藤戸 良子	神経精神科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
人工臓器を用いたサルコペニア手術患者における糖代謝動態の解明と新規治療法の開発	花崎 和弘	外科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
便色判別プログラムを利用した胆道閉鎖症早期発見のためのフィールド実証研究	大畠 雅之	外科学	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
低線量X線動画イメージングによる新しい肺機能診断法の創出と臨床応用	田村 昌也	外科学	382,243	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腸音モニタリングシステムを用いた外科手術周術期における新規腸蠕動運動解析法の開発	並川 努	外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Glypican-1を標的とした膵癌新規治療薬の開発	上村 直	外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	池内 昌彦	整形外科科学	200,000	補委	福島県立医科大学
慢性疼痛患者に対する簡便かつ多面的な疼痛感作評価法の開発	池内 昌彦	整形外科科学	12,700,000	補委	厚生労働省
有痛性偽関節の病態解明と治療標的の探索	池内 昌彦	整形外科科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
人工膝置換術後遷延痛における滑膜炎の影響と血管塞栓療法の有効性	杉村 夏樹	整形外科科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
変形性膝関節症の痛みの治療ターゲットの解明	阿漕 孝治	整形外科科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アクネ菌による前立腺癌発生メカニズムの解明	蘆田 真吾	泌尿器科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

黄色ブドウ球菌性眼感染症におけるPSM毒素の影響およびフェージ療法の効果の検討	福田 憲	眼科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
エンドトキシンにより誘導されるIgE非依存性アレルギー性結膜炎症状の検討	石田 わか	眼科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
上皮バリア低下による眼表面炎症の増悪メカニズムの解明	岸本 達真	眼科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
嚥下運動の“見える化”による嚥下障害の病態評価と治療への応用	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
認知症患者における嚥下障害の実態調査および機能評価に基づいた治療戦略	長尾 明日香	耳鼻咽喉科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部扁平上皮癌におけるSOCS1新規遺伝子治療確立のための基礎研究	小森 正博	耳鼻咽喉科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
性差関連因子の解析による膠芽腫の発生や治療抵抗性に関わる新たな経路の同定	上羽 哲也	脳神経外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
siRNA結合ナノパーティクルを用いた膠芽腫に対する標的遺伝子治療法の開発	福井 直樹	脳神経外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Overflow leak testの偽陽性についての検証	中居 永一	脳神経外科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
居住地社会経済格差が急性期脳梗塞診療に及ぼす影響に関する研究	福田 仁	脳神経外科学	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔がんの微小環境に立脚した免疫療法の開発に向けての基礎的検討	山本 哲也	歯科口腔外科	6,500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌および重複癌における潜在的口腔ポリーマウイルスの関わり	北村 直也	歯科口腔外科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔潜在的悪性疾患のがん化における細胞老化の関わり	笹部 衣里	歯科口腔外科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔癌由来エクソソームに発現されるPD-L1の抗腫瘍免疫に及ぼす影響	仙頭 慎哉	歯科口腔外科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
腔内マイクロビオータ解析に基づく女性生殖器感染症に対するテララメド治療法の開発	山岸 由佳	感染症科	1,008,546	補委	独立行政法人 日本学術振興会
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	山岸 由佳	感染症科	500,000	補委	愛知医科大学
ICG蛍光法による血流可視化と人工知能解析を用いた新規食道癌手術再建技術の開発	北川 博之	手術部	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
透析低血圧を防ぐ非侵襲的血压制御装置の開発	山崎 文靖	検査部	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
漢方薬で糖尿病性サルコペニアを予防する～漢方薬による筋萎縮抑制作用の検討～	石田 智滉	薬剤部	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
外来経口抗菌薬の適正使用へ向けた地域医療連携体制の構築	八木 祐助	薬剤部	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	泉 仁	リハビリテーション部	300,000	補委	獨協医科大学
有痛性腱板断裂肩の疼痛感作に関わる神経メカニズムの解明	泉 仁	リハビリテーション部	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
神経筋電気刺激を併用した嚥下訓練の有効性とメカニズムに関する筋電図学的研究	中平 真矢	リハビリテーション部	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
集中治療領患者の筋力低下に対する電気刺激療法の有用性	橋田 璃央	リハビリテーション部	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
				補委	
				補委	

計77件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Satoshi Inotani, Yoshinori Taniguchi, Keisyun Nakamura, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Knockout of Zeb2 ameliorates progression of renal tubulointerstitial fibrosis in a mouse model of renal ischemia-reperfusion injury	Nephrol Dial Transplant. 2022 Feb 25;37(3):454- 468.	Original Article
2	Yoshinori Taniguchi, Hirofumi Nishikawa, Takeshi Yoshida, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Expanding the spectrum of reactive arthritis (ReA): classic ReA and infection-related arthritis including poststreptococcal ReA, Poncet's disease, and iBCG-induced ReA	Rheumatol Int. 2021 Aug;41(8):1387-1398.	Review
3	Takafumi Taguchi	内科(内分泌代謝・腎臓)	Clinical Imaging Features of Thyroid Acropachy	Intern Med. 2022 Jan 15;61(2):133-134.	Review
4	Mitsuharu Yoshida, Yoshinori Taniguchi, Takeshi Yoshida, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Ultrasonography of auricular cartilage is a potential tool for diagnosing relapsing polychondritis and monitoring disease activity	Int J Rheum Dis. 2022 Feb;25(2):201-209.	Original Article
5	Mitsuharu Yoshida, Yoshinori Taniguchi	内科(内分泌代謝・腎臓)	Clinical Image: Splinter hemorrhage as a diagnostic clue of muscular polyarteritis nodosa	ACR Open Rheumatol. 2021 Oct;3(10):707.	Letter
6	Yoshinori Taniguchi, Hirofumi Nishikawa, Takahito Kimata, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Reactive Arthritis After Intravesical Bacillus Calmette-Guérin Therapy	J Clin Rheumatol. 2022 Mar 1;28(2):e583-e588.	Original Article
7	Yoshinori Taniguchi, Takahito Kimata	内科(内分泌代謝・腎臓)	Yellow Nail Syndrome Associated With Rheumatoid Arthritis	J Rheumatol. 2021 May;48(5):785.	Letter
8	Yoshinori Taniguchi, Takahito Kimata, Shigeto Kobayashi	内科(内分泌代謝・腎臓)	Acute Digital Necrosis Due to Interferon- α -Induced Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis	Arthritis Rheumatol. 2021 Aug;73(8):1542.	Letter
9	Taro Horino, Takeshi Kashio, Satoshi Inotani, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Membranous Nephropathy Associated With Multicentric Castleman Disease- Efficacy of Interleukin 6 Antibody for Nephrotic Syndrome	J Clin Rheumatol. 2022 Jan 1;28(1):e1-e2.	Case report
10	Taro Horino, Masami Ogasawara, Takeshi Kashio, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Lupus-related protein-losing enteropathy associated with pseudo- pseudo Meigs' syndrome and successfully treated with hydroxychloroquine	Rom J Intern Med. 2022 Mar 17;60(1):85-89.	Case report

11	Taro Horino, Osamu Ichii, Tomohiro Eguchi, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Nonsteroidal Anti-Inflammatory Drug- Induced Small Bowel Stricture in Rheumatoid Arthritis	J Clin Rheumatol. 2021 Apr 1;27(3):e86-e87.	Case report
12	Taro Horino, Satoshi Inotani, Tatsuki Matsumoto, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Value of 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography in the Diagnosis of Spondyloarthritis- Related Aortitis	J Clin Rheumatol. 2021 Apr 1;27(3):e116-e117.	Case report
13	Taro Horino, Osamu Ichii	内科(内分泌代謝・腎臓)	A Case of Behçet Disease Concurrent With Giant Saccular Abdominal Aortic Aneurysm	J Clin Rheumatol. 2021 Apr 1;27(3):e107-e108.	Case report
14	Taro Horino, Masami Ogasawara, Tatsuki Matsumoto, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Monoclonal Gammopathy of Undetermined Significance in a Patient With Synovitis, Acne, Pustulosis, Hyperostosis and Osteitis (SAPHO) Syndrome: Coincidence or Association?	J Clin Rheumatol. 2021 Dec 1;27(8S):S557-S558.	Case report
15	Satoshi Inotani, Taro Horino, Masayuki Ishihara, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Immunotactoid glomerulopathy associated with monoclonal gammopathy	Lancet. 2021 May 29;397(10289):2081.	Case report
16	Yuji Kadowaki, Taro Horino, Takeshi Kashio, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Anti-Ku Antibody-Related Scleroderma- Polymyositis Overlap Syndrome Associated With Hypothyroid Myopathy	J Clin Rheumatol. 2021 Aug 1;27(5):e200-e201.	Case report
17	Mitsuru Nishiyama, Takashi Karashima, Yasumasa Iwasaki, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Unilateral adrenalectomy partially improved hyperglycemia in a patient with primary bilateral macronodular adrenal hyperplasia	Diabetol Int. 2021 Apr 10;12(4):480-484.	Case report
18	Yutaka Hatakeyama, Taro Horino, Tatsuki Matsumoto, 他	医学情報センター	Long-term continuous use of proton- pump inhibitors is associated with renal function decline in patients without acute kidney injury	Clin Exp Nephrol. 2021 Oct;25(10):1087-1092.	Original Article
19	Keitaro Nagata, Taro Horino, Yutaka Hatakeyama, 他	医学情報センター	Effects of transient acute kidney injury, persistent acute kidney injury and acute kidney disease on the long-term renal prognosis after an initial acute kidney injury event	Nephrology (Carlton). 2021 Apr;26(4):312-318.	Original Article
20	Akihito Yokoyama, Hiroshi Okazaki, Naoyuki Makita, 他	内科(呼吸器)	Regional differences in the incidence of asthma exacerbations in Japan: A heat map analysis of healthcare insurance claims data	Allergol Int. 2022 Jan;71(1):47-54.	Original Article
21	Makoto Nakamura, Hitomi Iwasa, Kensuke Kojima	内科(血液)	Central Nervous System Involvement in Mantle Cell Lymphoma Presenting Magnetic Resonance Imaging Features of Mild Encephalitis/Encephalopathy with a Reversible Splenic Lesion	Intern Med. 2021 May 15;60(10):1597-1600.	Case report
22	Kazuto Togitani, Mitsuko Iguchi, Tadashi Asagiri, 他	内科(血液)	Glucocorticoid-induced redistribution lymphocytosis in mantle cell lymphoma with hyaline vascular Castleman disease- like features	J Clin Exp Hematop. 2022 Mar 9;62(1):46-51.	Case report

23	Tomohiro Nishimori, Tomonori Higuchi, Yumiko Hashida, 他	内科(血液)	Development of a novel cell line-derived xenograft model of primary herpesvirus 8-unrelated effusion large B-cell lymphoma and antitumor activity of birabresib in vitro and in vivo	Cancer Med. 2021 Dec;10(24):8976-8987.	Original Article
24	Tomokazu Aoyagi, Yoshiro Chiba, Hiroaki Kitaoka	内科(老年病・循環器)	Association between acute coronary syndrome onset risk and climate change	Arch Environ Occup Health. 2021 Dec 15;1-10.	Original Article
25	Toru Kubo, Yuichi Baba, Yuri Ochi, 他	内科(老年病・循環器)	Clinical significance of new-onset atrial fibrillation in patients with hypertrophic cardiomyopathy	ESC Heart Fail. 2021 Dec;8(6):5022-5030.	Original Article
26	Yuri Ochi, Toru Kubo, Yuichi Baba, 他	内科(老年病・循環器)	Wild-Type Transthyretin Amyloidosis in Female Patients - Consideration of Sex Differences	Circ Rep. 2021 Jun 29;3(8):465-471.	Original Article
27	Hiroaki Kitaoka, Hiroyuki Tsutsui, Toru Kubo, 他	内科(老年病・循環器)	JCS/JHFS 2018 Guideline on the Diagnosis and Treatment of Cardiomyopathies	Circ J. 2021 Aug 25;85(9):1590-1689.	Others
28	Yuta Nakaya, Masanori Akamatsu, Akiyoshi Ogimoto, 他	内科(老年病・循環器)	Early cardiac rehabilitation for acute decompensated heart failure safely improves physical function (PEARL study): a randomized controlled trial	Eur J Phys Rehabil Med. 2021 Dec;57(6):985-993.	Original Article
29	Yuri Ochi, Toru Kubo, Yuichi Baba, 他	内科(老年病・循環器)	A Case Report of Asymmetry of Systolic Anterior Motion of the Mitral Valve, a Not Widely Well-Known but Practically Important Echocardiographic Presentation in Hypertrophic Cardiomyopathy	CASE (Phila). 2021 Apr 8;5(3):160-165.	Case report
30	Kenta Sugiura, Hiroki Kozuki, Hiroaki Ueba, 他	内科(老年病・循環器)	Tenosynovial and Cardiac Transthyretin Amyloidosis in Japanese Patients Undergoing Carpal Tunnel Release	Circ Rep. 2021 May 27;3(6):338-344.	Original Article
31	Yuichi Baba, Toru Kubo, Hiroaki Kitaoka	内科(老年病・循環器)	The High Road or the Low Road? A Question Regarding Whether to Use Upper or Lower Pulmonary Veins in Measuring Pulmonary Vein Flow	J Am Soc Echocardiogr. 2021 Oct;34(10):1116-1117.	Letter
32	Tomoyuki Hamada, Toru Kubo, Kazuya Kawai, 他	内科(老年病・循環器)	Frailty in patients with acute decompensated heart failure in a super-aged regional Japanese cohort	ESC Heart Fail. 2021 Aug;8(4):2876-2888.	Original Article
33	Yuka Yamagishi, Norihisa Nakayama, Naoki Matsunaga, 他	感染症科	Novel approach for rapid detection of extended spectrum β -lactamase and metalloid- β -lactamase using drug susceptibility testing microfluidic device (DSTM)	J Infect Chemother. Epub 2022 Jan 10.	Original Article
34	Masayuki Ishihara, Yoshiki Nagao, Yoshie Nishida, 他	小児科	The first case report of Kocuria rhizophila peritonitis in a 3-year-old Japanese girl	Pediatr Int. 2021 Dec;63(12):1523-1524.	Case report

35	Kimiko Nakajima, Riho Nakajima, Hiroyuki Morisaka, 他	皮膚科	Beneficial Impact of Apremilast on Palmoplantar Keratodermas	Acta Derm Venereol. 2021 Apr 26;101(4):adv00437.	Original Article
36	Risa Ohsawa, Hozumi Sano, Mitsunori Ikeda, 他	皮膚科	Clinical and histopathological views of morbilliform rash after COVID-19 mRNA vaccination mimic those in SARS-CoV-2 virus infection-associated cutaneous manifestations	J Dermatol Sci. 2021 Aug;103(2):124-127.	Case report
37	Hiroyuki Morisaka, Riho Nakajima, Yukiko Aoyama, 他	皮膚科	Case of pigmented skin metastasis of breast carcinoma	J Dermatol. 2021 Sep;48(9):e476-e477.	Case report
38	Mayuko Yamamoto, Hideki Nakajima, Yukiko Aoyama, 他	皮膚科	The diagnostic utility of Elastica van Gieson stain in hydrophilic polymer embolism	J Dermatol. 2021 Nov;48(11):e538-e540.	Case report
39	Natsuko Aoki, Yusuke Saruta, Sae Tanaka, 他	皮膚科	Skin ulcer at the injection site of BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccine	J Dermatol. 2021 Dec;48(12):e596-e597.	Case report
40	Natsuko Aoki, Hideki Nakajima, Kimiko Nakajima, 他	皮膚科	Severe irritant contact dermatitis from olanexidine gluconate and subsequent skin sensitization	Contact Dermatitis. 2022 Mar;86(3):234-236.	Case report
41	Hitomi Iwasa, Yoriko Murata, Miki Nishimori, 他	放射線診断科	Pancreatic FDG uptake on follow-up PET/CT in patients with cancer	Oncol Lett. 2021 Apr;21(4):270.	Original Article
42	Kenji Kajiwara, Rika Yoshimatsu, Marina Komoto, 他	放射線診断科	Efficacy and safety of CT-guided cryoablation after lipiodol marking and embolization for RCC	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2022 Aug;31(6):923-929.	Original Article
43	Shigehiro Tsujii, Satoshi Serada, Minoru Fujimoto, 他	外科	Glypican-1 Is a Novel Target for Stroma and Tumor Cell Dual-Targeting Antibody-Drug Conjugates in Pancreatic Cancer	Mol Cancer Ther. 2021 Dec;20(12):2495-2505.	Original Article
44	Tsutomu Namikawa, Shigeto Shimizu, Keiichiro Yokota, 他	外科	Serum zinc deficiency in patients after gastrectomy for gastric cancer	Int J Clin Oncol. 2021 Oct;26(10):1864-1870.	Original Article
45	Keiichiro Yokota, Satoshi Serada, Shigehiro Tsujii, 他	外科	Anti-Glypican-1 Antibody-drug Conjugate as Potential Therapy Against Tumor Cells and Tumor Vasculature for Glypican-1-Positive Cholangiocarcinoma	Mol Cancer Ther. 2021 Sep;20(9):1713-1722.	Original Article
46	Kazuhiro Hanazaki, Nobuhisa Tanioka, Masaya Munekage, 他	外科	Closed-loop artificial endocrine pancreas from Japan	Artif Organs. 2021 Sep;45(9):958-967.	Review

47	Tsutomu Namikawa, Keiichiro Yokota, Sachi Yamaguchi, 他	外科	Spontaneous intra-abdominal hemorrhage of a well-differentiated, grade 3 gastric neuroendocrine tumor during drug-based treatment	Clin J Gastroenterol. 2021 Aug;14(4):1244-1249.	Case report
48	Tsutomu Namikawa, Shigeto Shimizu, Keiichiro Yokota, 他	外科	Cystic lymphangioma of the greater omentum treated by laparoscopic resection	Clin J Gastroenterol. 2021 Aug;14(4):1004-1007.	Case report
49	Tsutomu Namikawa, Akira Marui, Keiichiro Yokota, 他	外科	Successful Conversion Surgery for Advanced Gastric Cancer With Multiple Liver Metastases Following Ramucirumab Plus Paclitaxel Combination Treatment	In Vivo. 2021 Sep-Oct;35(5):2929-2935.	Case report
50	Tsutomu Namikawa, Akira Marui, Keiichiro Yokota, 他	外科	Solitary port-site metastasis 42 months after laparoscopic distal gastrectomy for gastric cancer	Clin J Gastroenterol. 2021 Dec;14(6):1626-1631.	Case report
51	Tsutomu Namikawa, Shigeto Shimizu, Keiichiro Yokota, 他	外科	Neutrophil-to-lymphocyte ratio and C-reactive protein-to-albumin ratio as prognostic factors for unresectable advanced or recurrent gastric cancer	Langenbecks Arch Surg. 2022 Mar;407(2):609-621.	Original Article
52	Yuki Fujieda, Keiichi Morita, Shogo Otake, 他	外科	Infectious complications after tracheoplasty for congenital tracheal stenosis: a retrospective comparative study	Pediatr Surg Int. 2021 Dec;37(12):1737-1741.	Original Article
53	Tsutomu Namikawa, Akira Marui, Keiichiro Yokota, 他	外科	Gastric Eosinophilic Granuloma Related to Anisakiasis Resected by Laparoscopic and Endoscopic Cooperative Surgery	Cancer Diagn Progn. 2021 Nov 3;1(5):507-512.	Case report
54	Nobuhisa Tanioka, Hiromichi Maeda, Shigeto Shimizu, 他	外科	Indocyanine green fluorescence-guided laparoscopic deroofting of a liver cyst: A case report	Asian J Endosc Surg. Epub 2021 Oct 13.	Case report
55	Sunao Uemura, Hideki Endo, Nao Ichihara, 他	外科	Day of surgery and mortality after pancreatoduodenectomy: A retrospective analysis of 29 270 surgical cases of pancreatic head cancer from Japan	J Hepatobiliary Pancreat Sci. Epub 2021 Sep 23.	Original Article
56	Sunao Uemura, Hiromichi Maeda, Masayuki Obatake, 他	外科	Laparoscopic cholecystectomy for gallbladder torsion in a 3-year-old child	Acute Med Surg. 2021 Dec 22;8(1):e722.	Case report
57	Michiko Takahashi, Yuki Matsumoto, Takako Ujihara, 他	外科	Complete Genome Sequence of Helicobacter pylori Strain 3401, a Suitable Host for Bacteriophages KHP30 and KHP40	Microbiol Resour Announc. 2021 Oct 21;10(42):e0064721.	Original Article
58	Marino Yamamoto, Takashi Anayama, Hironobu Okada, 他	呼吸器外科	Surgical ligation level of the bronchial artery influences tissue oxygen saturation of the bronchus and the incidence of postoperative bronchofistula after pulmonary lobectomy	Quant Imaging Med Surg. 2021 Jul;11(7):3157-3164.	Original Article

59	Bun Aoyama, Tomoaki Yatabe, Fabricio M Locatelli, 他	麻酔科	Current status of variations in in-hospital cardiac arrest call numbers in Japan: a nationwide survey	J Anesth. 2021 Apr;35(2):315-318.	Original Article
60	Naw Awn J-P, Marina Minami, Masamitsu Eitoku, 他	産科婦人科	Lack of concern about body image and health during pregnancy linked to excessive gestational weight gain and small-for-gestational-age deliveries: the Japan Environment and Children's Study	BMC Pregnancy Childbirth. 2021 May 21;21(1):396.	Original Article
61	Yusuke Kunimi, Marina Minami, Sifa Marie Joelle Muchanga, 他	産科婦人科	Exogenous oxytocin used to induce labor has no long-term adverse effect on maternal-infant bonding: Findings from the Japan Environment and Children's Study	J Affect Disord. 2022 Feb 15;299:37-44.	Original Article
62	Masashi Izumi, Yohei Harada, Yukihiro Kajita, 他	リハビリテーション部	Expression of Substance P and Nerve Growth Factor in Degenerative Long Head of Biceps Tendon in Patients with Painful Rotator Cuff Tear	J Pain Res. 2021 Aug 16;14:2481-2490.	Original Article
63	Yoshinori Satake, Masashi Izumi, Koji Aso, 他	整形外科	Comparison of Predisposing Factors Between Pain on Walking and Pain at Rest in Patients with Knee Osteoarthritis	J Pain Res. 2021 Apr 20;14:1113-1118.	Original Article
64	Isana Nakajima, Yoshinori Taniguchi, Tomoka Mizobuchi, 他	眼科	Optic Neuropathy with Headache and Palpable Temporal Arteries Due to Hypertrophic Pachymeningitis Rather than Giant Cell Arteritis	Ocul Immunol Inflamm. 2021 Apr 1;1-4.	Letter
65	Ken Fukuda, Tomoka Mizobuchi, Tatsuma Kishimoto, 他	眼科	Clinical profile and visual outcome of intraocular inflammation associated with cat-scratch disease in Japanese patients	Jpn J Ophthalmol. 2021 Jul;65(4):506-514.	Original Article
66	Yusaku Miura, Ken Fukuda, Atsuki Fukushima	眼科	Outcomes of flanged IOL fixation combined with microhook trabeculotomy	Int Ophthalmol. 2022 Mar;42(3):799-804.	Original Article
67	Ken Fukuda, Tomoka Mizobuchi, Isana Nakajima, 他	眼科	Ocular Involvement in Relapsing Polychondritis	J Clin Med. 2021 Oct 26;10(21):4970.	Review
68	Waka Ishida, Tatsuma Kishimoto, Fumio Takaiwa, 他	眼科	Prophylactic and Therapeutic Effects of Oral Immunotherapy on Birch Pollen-Induced Allergic Conjunctivitis in Mice with a Rice-Based Edible Vaccine Expressing a Hypoallergenic Birch Pollen Allergen	Cells. 2021 Nov 30;10(12):3361.	Original Article
69	Isana Nakajima, Yoshinori Taniguchi, Hideki Tsuji, 他	眼科	Therapeutic potential of the interleukin-4/interleukin-13 inhibitor dupilumab for treating IgG4-related disease	Rheumatology (Oxford). 2022 May 30;61(6):e151-e153.	Letter
70	Ken Fukuda, Yusaku Miura, Mitsuko Iguchi	眼科	Leukocoria in a child due to endophthalmitis caused by an intraocular eyelash	Am J Ophthalmol. Epub 2022 Jan 14.	Others

71	Kayo Sugiura, Shimpei Ishimaru, Ken Fukuda	眼科	Atypical Leber hereditary optic neuropathy with a 34-year interval between vision loss in both eyes	Am J Ophthalmol Case Rep. 2022 Jan 20;25:101263.	Case report
72	Yusaku Miura, Ken Fukuda	眼科	Comparison of Different Procedures in a Combination of Ab Interno Microhook Trabeculotomy and Cataract Surgery	J Clin Med. 2022 Jan 29;11(3):738.	Original Article
73	Isana Nakajima, Hideki Tsuji, Tomoka Mizobuchi, 他	眼科	Bilateral Multiple Primary Cysts of the Iris Pigment Epithelium Occluding Pupil	Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2022 Feb 7.	Others
74	Tatsuma Kishimoto, Waka Ishida, Isana Nakajima, 他	眼科	Promotion of conjunctival fibroblast-mediated collagen gel contraction by mast cells through up-regulation of matrix metalloproteinase release and activation	Exp Eye Res. Epub 2022 Feb 9.	Original Article
75	Ken Fukuda, Waka Ishida, Tatsuma Kishimoto, 他	眼科	Role of Damage-Associated Molecular Patterns (DAMPs/Alarmins) in Severe Ocular Allergic Diseases	Cells. 2022 Mar 20;11(6):1051.	Review
76	Masamitsu Hyodo, Kento Asano, Asuka Nagao, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Botulinum Toxin Therapy: A Series of Clinical Studies on Patients with Spasmodic Dysphonia in Japan	Toxins (Basel). 2021 Nov 25;13(12):840.	Review
77	Masahiro Komori, Taisuke Kobayashi, Jun Hyodo, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Cartilage tympanoplasty for recurrent cholesteatoma using a single sliced cartilage graft: Our experience in 14 ears	Clin Case Rep. 2021 Sep 22;9(9):e04799.	Case report
78	Kahori Hirose, Kento Asano, Masahiko Sakaguchi, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Post-treatment clinical course following botulinum toxin injection therapy for adductor spasmodic dysphonia: Analysis of data from a placebo-controlled, randomized, double-blinded clinical trial in Japan	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2021 Sep 28;6(5):1088-1095.	Original Article
79	Taihei Kajiyama, Masahiro Komori, Mitsuko Iguchi, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Laryngeal malignant peripheral nerve sheath tumor mixed with high- and low-grade malignancies	J Surg Case Rep. 2021 Aug 31;2021(8):rjab373.	Case report
80	Taihei Kajiyama, Masahiro Komori, Mariko Hiyama, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Changes during medical treatments before adenotonsillectomy in children with obstructive sleep apnea	Auris Nasus Larynx. Epub 2021 Nov 25.	Original Article
81	Mitsuhiro Takemura, Masanori Sasaki, Yuko Kataoka-Sasaki, 他	脳神経外科	Repeated intravenous infusion of mesenchymal stem cells for enhanced functional recovery in a rat model of chronic cerebral ischemia	J Neurosurg. 2021 Dec 3;1-10.	Original Article
82	Hitoshi Fukuda, Fumihiro Hamada, Motonobu Nonaka, 他	脳神経外科	Impact of subcallosal artery origin and A1 asymmetry on surgical outcomes of anterior communicating artery aneurysms	Acta Neurochir (Wien). 2021 Nov;163(11):2955-2965.	Original Article

83	Hitoshi Fukuda, Benjamin Lo, Tetsuya Ueba	脳神経外科	In reply to "Vascular supplies to the column of the fornix other than the subcallosal artery: median artery of the corpus callosum and posterior choroidal arteries"	Acta Neurochir (Wien). 2022 Jan;164(1):165-166.	Letter
84	Keiji Inoue, Hideo Fukuhara, Shinkuro Yamamoto, 他	泌尿器科	Current status of photodynamic technology for urothelial cancer	Cancer Sci. 2022 Feb;113(2):392-398.	Review
85	Hideo Fukuhara, Takahiro Nohara, Koshiro Nishimoto, 他	泌尿器科	Identification of risk factors associated with oral 5-aminolevulinic acid-induced hypotension in photodynamic diagnosis for non-muscle invasive bladder cancer: a multicenter retrospective study	BMC Cancer. 2021 Nov 13;21(1):1223.	Original Article
86	Kaya Atagi, Hideo Fukuhara, Motoyoshi Ishiguro, 他	泌尿器科	Successful treatment with DCF chemotherapy and radiotherapy for primary squamous cell carcinoma of the prostate	IJU Case Rep. 2021 Aug 23;4(6):421-424.	Case report
87	Takahira Kuno, Kenji Tamura, Hideo Fukuhara, 他	泌尿器科	Tadalafil 5 mg Once Daily Improved Each IPSS Subscore, QOL, and Nocturia in Elderly BPH Patients over 70 Years Old in a Real-World Clinical Setting	Urol Int. 2021 Oct 21;1-7.	Original Article
88	Hideo Fukuhara	泌尿器科	Editorial Comment to Differences in 5-Aminolevulinic Acid-Induced Hemodynamic Changes between Patients Undergoing Neurosurgery and Urological Surgery	JMA J. 2021 Oct 15;4(4):447-448.	Letter
89	Shingo Ashida, Ichiro Yamasaki, Chiaki Kawada, 他	泌尿器科	Evaluation of a rapid one-step PSA test for primary prostate cancer screening	BMC Urol. 2021 Sep 27;21(1):135.	Original Article
90	Masaki Yamamoto, Hitoshi Ninomiya, Takemi Handa, 他	泌尿器科	The impact of the quantitative assessment procedure for coronary artery bypass graft evaluations using high-resolution near-infrared fluorescence angiography	Surg Today. 2022 Mar;52(3):485-493.	Original Article
91	Shinkuro Yamamoto, Hideo Fukuhara, Hitomi Seki, 他	泌尿器科	Predictors of therapeutic efficacy of 5-aminolevulinic acid-based photodynamic therapy in human prostate cancer	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2021 Sep;35:102452.	Original Article
92	Naoya Kitamura, Shinya Sento, Eri Sasabe, 他	歯科口腔外科	Vertebral fracture and splenomegaly in a head and neck cancer producing granulocyte colony-stimulating factor: A case report of systemic complications associated with a cytokine-producing solid tumor	Mol Clin Oncol. 2021 Oct;15(4):202.	Case report
93	Eri Sasabe, Ayumi Tomomura, Hangyu Liu, 他	歯科口腔外科	Epidermal growth factor/epidermal growth factor receptor signaling blockage inhibits tumor cell-derived exosome uptake by oral squamous cell carcinoma through macropinocytosis	Cancer Sci. 2022 Feb;113(2):609-621.	Original Article
94	Kie Nakatani, Satoshi Serada, Minoru Fujimoto, 他	歯科口腔外科	Gene therapy with SOCS1 induces potent preclinical antitumor activities in oral squamous cell carcinoma	J Oral Pathol Med. 2022 Feb;51(2):126-133.	Original Article

95	Atsushi Morizane, Yoshio Uehara, Satoko Kitamura, 他	総合診療部	Staphylococcus aureus nasal colonization increases the risk of cedar pollinosis	J Gen Fam Med. 2022 Mar 1;23(3):172-176.	Original Article
96	Yusuke Yagi, Michiro Iizuka, Moemi Okazaki, 他	薬剤部	Daptomycin for the successful treatment of postoperative methicillin-resistant Staphylococcus aureus empyema: a case report	J Chemother. 2021 Oct;33(6):431-434.	Case report
97	Yanglan Ou, Kohei Jobu, Tomoaki Ishida, 他	薬剤部	Saikokeishikankyo extract alleviates muscle atrophy in KKAY mice	J Nat Med. 2022 Mar;76(2):379-388.	Original Article
98	Shumpei Morisawa, Kohei Jobu, Tomoaki Ishida, 他	薬剤部	Association of 5-aminolevulinic acid with intraoperative hypotension in malignant glioma surgery	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2022 Mar;37:102657.	Original Article
99	Tomoaki Ishida, Kohei Jobu, Kei Kawada, 他	薬剤部	Impact of Gut Microbiota on the Pharmacokinetics of Glycyrrhizic Acid in Yokukansan, a Kampo Medicine	Biol Pharm Bull. 2022;45(1):104-113.	Original Article
100	Kei Kawada, Hitoshi Fukuda, Toru Kubo, 他	薬剤部	Added value of anxiolytic benzodiazepines in predictive models on severe delirium in patients with acute decompensated heart failure: A retrospective analysis	PLoS One. 2021 Apr 22;16(4):e0250372.	Original Article
101	Yumiko Yamamoto, Yoshihiro Hayashi, Hideyuki Sakaki, 他	病理診断部	Evaluation of Clinical and Immunohistochemical Factors Relating to Melanoma Metastasis: Potential Roles of Nestin and Fascin in Melanoma	Diagnostics (Basel). 2022 Jan 17;12(1):219.	Original Article
102	Yumiko Yamamoto, Yoshihiro Hayashi, Hideyuki Sakaki, 他	病理診断部	Fascin-1 is associated with recurrence in solitary fibrous tumor/hemangiopericytoma	Mol Clin Oncol. 2021 Oct;15(4):199.	Original Article
103	Atsushi Kurabayashi, Kaoru Furihata, Waka Iwashita, 他	病理診断部	Murine remote ischemic preconditioning upregulates preferentially hepatic glucose transporter-4 via its plasma membrane translocation, leading to accumulating glycogen in the liver	Life Sci. 2022 Feb 1;290:120261.	Original Article
104	Chiharu Tanaka, Kaoru Furihata, Seiji Naganuma, 他	病理診断部	Establishment of a mouse model of pancreatic cancer using human pancreatic cancer cell line S2-013-derived organoid	Hum Cell. 2022 Mar;35(2):735-744.	Original Article

計104件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の構成、倫理委員会の運営、審査手順、有害事象対応、各種報告について、記録の保存・公表	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 対象者の範囲、マネジメントの対象、マネジメント委員会の設置、調査、資料の保存、学外への情報公開	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	オンライン (随時)
・ 研修の主な内容 臨床研究概論、研究デザイン、統計手法、臨床研究倫理、被験者保護、利益相反、データマネジメント、品質管理/品質保証、法規指針、等	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・原発性肝癌に対するラジオ波熱凝固療法 ・内視鏡的食道静脈瘤硬化療法
- ・経カテーテル的肝動脈化学塞栓術 ・部分的脾動脈塞栓術
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的閉塞術 ・経皮的肝嚢胞固定術
- ・消化管悪性腫瘍に対する拡大内視鏡診断 ・消化管の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術
- ・消化管出血に対する内視鏡的止血術 ・内視鏡的胆道ドレナージ
- ・内視鏡的膵管ドレナージ ・経皮的胆道(胆嚢、胆管)ドレナージ ・超音波内視鏡下吸引針生検
- ・難治性膠原病に対する血液浄化療法 ・難治性膠原病に対する免疫グロブリン療法
- ・難治性膠原病に対する生物製剤治療 ・甲状腺穿刺細胞診 ・内分泌負荷試験の実施
- ・経皮的腎生検 ・持続皮下インスリン注入療法 (CSII)の導入 ・持続血糖測定装置 (CGMS)の実施
- ・超音波気管支鏡を用いた気管支鏡検査 ・超音波気管支鏡を用いた経気管支リンパ節吸引細胞診検査
- ・気管支鏡検査のためのナビゲーション作成 ・非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害療法
- ・悪性胸膜中皮腫に対する免疫チェックポイント阻害療法
- ・難治性気管支喘息に対する気管支サーモプラスチック療法
- ・難治性気管支喘息に対する生物学的製剤治療
- ・同種造血幹細胞移植 ・自家末梢血幹細胞移植 ・急性白血病の寛解導入 ・地固め療法
- ・慢性白血病に対する分子標的療法 ・多発性骨髄腫に対する新規薬剤を含む併用化学療法
- ・悪性リンパ腫に対するCD20抗体併用化学療法
- ・冠動脈造影、感度婦脈インターベンション ・デバイス植え込み、アブレーション治療 ・心エコー検査
- ・脳神経内科専門医研修
- ・食物経口負荷試験 ・重症アトピー性皮膚炎スキンケア ・スキンプリックテスト・小児心臓カテーテル検査
- ・小児腎生検 ・内分泌負荷試験 ・中心静脈挿入術 ・腸重積整復術 ・骨髄穿刺
- ・小児血液腫瘍患者の化学療法 ・小児重症心不全患者の循環管理 ・超低出生体重児の呼吸循環管理
- ・難治性てんかんの痙攣管理 ・重症呼吸不全患者の呼吸管理 (人工呼吸器管理含む)
- ・四国IVRリサーチミーティング
- ・胃癌に対する腹腔鏡下手術 ・食道癌に対する胸腔鏡下手術 ・大腸癌に対する腹腔鏡下手術
- ・原発性肝癌に対する広範囲肝切除 ・膵癌に対する膵頭十二指腸切除
- ・講演「周術期の輸血管理」 ・講演「徳島県における重症コロナ診療の現状」
- ・日本産科婦人科学会 産婦人科専門医研修 ・日本生殖医学会 生殖医療専門医研修
- ・日本遺伝性腫瘍学会 遺伝性腫瘍専門医研修 ・日本周産期新生児医学会 日本周産期新生児専門医研修
- ・日本産科婦人科内視鏡学会 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医研修
- ・日本女性医学学会 日本女性医学学会専門医研修
- ・ナビゲーションシステムを用いた上位頸椎部スクリュー固定
- ・腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術
- ・骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する小皮切ペースト状人工骨充填術
- ・股関節臼蓋形成不全に対する低侵襲棚形成術 ・膝靭帯損傷に対する関節鏡下靭帯再建術
- ・肩腱板断裂に対する関節鏡下腱板修復術 ・ナビゲーション人工関節置換術
- ・腰椎分離症に対する最小侵襲手術 ・リバーstype人工肩関節置換術 ・自家培養軟骨細胞移植術
- ・脊柱側弯症に対する矯正固定術
- ・涙道内視鏡手術 ・加齢黄斑変性に対する光線力学的療法 ・眼内内視鏡を用いた硝子体手術
- ・緑内障インプラント手術
- ・耳鼻咽喉科専門研修 ・頭頸部がん専門研修 ・気管食道科専門研修
- ・脳動脈塞栓術 ・解離性脳動脈瘤塞栓術 ・内頸動脈-海綿静脈洞瘻塞栓術
- ・ニューロナビゲーションを用いた開頭腫瘍摘出術 ・内頸動脈狭窄症に対するステント留置術
- ・腎癌の新規薬物療法 ・前立腺癌の密封小線源永久挿入療法 ・前立腺癌の高線量率組織内照射療法
- ・前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術 ・膀胱癌の光力学的診断

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	585人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
内田 一茂	内科(消化器)	教授	27年	
寺田 典生	内科(内分泌代謝・腎臓)	教授	35年	
藤本 新平	内科(内分泌代謝・腎臓)	教授	28年	
横山 彰仁	内科(呼吸器)	教授	36年	
小島 研介	内科(血液)	教授	28年	
北岡 裕章	内科(老年病・循環器)	教授	31年	
藤枝 幹也	小児科	教授	35年	
數井 裕光	精神科	教授	30年	
佐野 栄紀	皮膚科	教授	36年	
山上 卓士	放射線科	教授	28年	
河野 崇	麻酔科	教授	21年	
前田 長正	産科婦人科	教授	34年	
池内 昌彦	整形外科	教授	24年	
山城 健児	眼科	教授	26年	
兵頭 政光	耳鼻咽喉科	教授	36年	
上羽 哲也	脳神経外科	教授	30年	
井上 啓史	泌尿器科	教授	30年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 がん化学療法 薬薬連携研修会（ハイブリッド開催）・研修の期間・実施回数 2022年3月22日 1時間・研修の参加人数 50人 ・研修の主な内容 中堅看護職員-がん中期研修-（県からの委託事業）・研修の期間・実施回数 2021年9月～2021年11月 total 71時間・研修の参加人数 9人 ・研修の主な内容 高知県がん専門相談員研修（Web開催）・研修の期間・実施回数 2022年7月2日 3時間・研修の参加人数 13人

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 花崎 和弘	
管理担当者氏名	総務企画課長 正木 博	医療安全管理部長 上羽 哲也
	医事課長 小林 保数	感染管理部長 山岸 由佳
	総務課長 深田 規嗣	臨床工学部長 井上 啓史
	薬剤部長 宮村 充彦	診療情報管理室長 河野 崇
	放射線部長 山上 卓士	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	医事課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事課
		看護記録	医事課
		検査所見記録	医事課
		エックス線写真	(フィルムレス化済み)
		紹介状	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務企画課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画課
		高度の医療の研修の実績	総務企画課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

病院日誌・各科診療日誌は電子媒体で院内Webにより参照可能。その他の諸記録は電子カルテとして一元管理。電子カルテ以前の紙媒体の診療記録は外来・入院別に一患者一ファイル方式としてカルテ室に保管。診療録の院外持ち出しは許可していない。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務企画課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	総務企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	総務企画課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 西田 浩敏
閲覧担当者氏名	総務企画課長 正木 博
閲覧の求めに応じる場所	医事課 医事相談室
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧を申請する場合は、閲覧申請書を総務企画課に提出する。 諸記録の閲覧を許可した場合は、閲覧許可書を交付のうえ、閲覧場所において閲覧を行うようになっている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理に関する基本的考え方（安全管理の体制確保という総合的観点から） ・ 医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 ・ 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針 ・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者や第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全上の問題が発生した場合に、速やかに原因究明のための調査及び分析を行う。 (2) 前項の分析結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を企画立案及び実施し、院内に周知する。 (3) 同様の事故等の発生状況の確認や定期的な関係部署の巡回等により改善のための方策の実施状況を調査し方策を徹底するとともに、必要に応じて当該方策の見直しを行う。 (4) 医療安全管理部の業務に関することを審議する。 (5) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関することを審議する。 (6) 医療事故防止マニュアルに関することを審議する。 (7) 医療安全に資する研修の企画・立案に関することを審議する。 (8) 医療に係る安全管理のための指針に関することを審議する。 (9) その他医療安全管理に関することを審議する。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	オンライン実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <p>e-learningにて研修を実施。各研修の動画を視聴後、小テストにて10点中8点以上で受講完了。2つ以上の受講を必須としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「MRIの安全利用」 ・ 「医療機器の安全使用（インシデントと対策）」 ・ 「化学療法による副作用」 ・ 「医薬品安全管理に関する情報提供」 ・ 「放射線治療における有害事象とその対応」 ・ 「医療事故を防ぐコミュニケーション方法」 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 各部署において複数診療科や多職種でM&Mカンファレンスやデスクカンファレンスを開催し、実施した医療行為や経過について振り返りを行っている。
 - ・ 各部署リスクマネージャーが問題点を分析し、改善策・影響度レベルを含め報告を行う。事例内容によっては分析方法の演習も実施し、リスクマネージャーの分析力向上を図る。
 - ・ 医療安全管理部においては、各部署から報告のあったインシデントレポートの分析状況及び影響度レベルの妥当性を複数のメンバーによりチェックし、分析が不十分なものや関連会議での検討を要するものを抽出のうえ、専任リスクマネージャーが調査し、必要に応じて関連会議で検討する。
 - ・ 検討については、主に医療安全管理委員会で検討するが、必要に応じワーキンググループを設置して改善策を検討のうえ、リスクマネジメント担当者会議で検討する場合もある。また、更なる検討が必要と認められる事例は、医療問題調査委員会に諮る。
 - ・ 院内には転倒・転落防止対策チームがあり、毎月定例会議を開催して各部署の毎月の発生件数と分析内容を会議で報告し、転倒・転落防止への取り組みを行っている。
 - ・ 医療安全管理部のコアメンバーによるチームミーティングを週一回開催し、重要な事例や気になる事例についての問題点の分析を行っている。
 - ・ 医療機器の不具合情報、医薬品による副作用報告等を医薬品医療機器総合機構(PMDA)に報告する。
 - ・ インシデントによる早急な改善策や注意喚起、周知を図るためリスクマネジメントニュースを発行している。
 - ・ 病棟巡視を行って、その結果を病棟に示し、注意・改善を促している。
 - ・ 検査依頼医に連絡が必要な読影所見に対して適切な対応が取られたかを確認し、できていない場合は検査依頼医と検査結果報告書確認責任者に対し注意喚起している。
 - ・ 放射線・病理・内視鏡検査報告書の作成から14日以上「未読」の状態が続く場合は、医療安全管理部から各部署の長に通知している。
 - ・ 報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。
 - ・ 医療事故調査制度について、医療安全管理研修会を開催して病院職員へ周知を行っている。
 - ・ 医療安全管理部において死亡事例個人票を作成して全死亡症例の把握と検証を行っている。さらに、事例の検証結果(医療事故調査制度への該当の有無を含む)を各部署長宛に送付し、双方で確認を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>以下に関する事項の審議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策のため指針の策定に関すること。 2. 感染の発生及びその感染経路の調査に関すること。 3. 感染予防に係る情報の収集に関すること。 4. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 5. 感染症発生時の措置に関すること。 6. 院内職員の教育及び啓発に関すること。 7. 抗微生物薬・消毒薬等の使用に関すること。 8. 感染管理部の業務に関すること。 9. 院内感染対策に係る規則の制定及び改廃に関すること。 10. その他感染予防に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	オンライン実施
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>e-learningにて研修を実施。各研修の動画を視聴後、小テストにて10点中8点以上で受講完了。2つ以上の受講を必須としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症 検査 (e-learning) ・ 新型コロナウイルス感染症 感染対策 (e-learning) ・ 新型コロナウイルス感染症 ワクチンと治療 (e-learning) ・ 新型コロナウイルス感染症 ウイルスの基本 (e-learning) ・ 感染管理卒後臨床研修オリエンテーション&新採用看護師研修 ・ 感染管理リカレント（静脈注射）研修 ・ 新規採用対象静脈採血研修 ・ 看護助手対象研修（感染対策の基本） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染情報レポートは、週報（毎週1回）、月報（毎月1回）、年報（毎年1回）作成し、MRSA、基質拡張型β-ラクターゼ産生菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、バンコマイシン耐性腸球菌、クロストリディオイデス・ディフィシル菌、インフルエンザ、ノロウイルス、結核菌などの検出状況を示している。 	

2. 感染情報レポートは毎月1回作成し報告している。
 - ①MRSAを含む耐性菌、C. difficileなどの発生状況
 - ②速乾性手指消毒薬使用状況：入院患者1人あたりの1日使用回数
 - ③針刺し・切創・粘膜曝露などの事故発生報告
 - ④血液培養における検査依頼状況（2セット率、血液培養陽性例）
 - ⑤抗菌薬使用実績報告：抗MRSA薬とカルバペネム系抗菌薬のAUD、周術期予防的抗菌薬の使用状況など
 - ⑥結核患者発生報告
3. 感染情報レポートは、ベースラインを把握し、状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによってアウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。
4. 感染管理部に報告が必要な病原体と疾患として、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、バンコマイシン耐性腸球菌、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌、クロストリディオイデス・ディフィシル菌、また感染性胃腸炎、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、麻疹、水痘・带状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。
5. 診療科、病棟、外来、検査部から感染管理部に報告があれば、状況に応じて下記対応を行う
 - ① 感染管理部は当該部署に出向き、患者発生状況を調査する
 - ② 感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
 - ③ 接触者（患者、面会者、医療従事者）を確認し、必要な予防策を講じる
 - ④ 医師、看護師、感染管理部合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
 - ⑤ 臨時委員会などを開催、対応方針を決定する
 - ⑥ 再発防止策の提案、必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する
6. 感染対策ラウンド（週2回以上）
 - ①手指衛生ラウンド
 - ②環境ラウンド
 - ③感染対策ラウンド
7. 抗菌薬適正使用支援カンファレンス（毎日）

血液培養陽性者への対応

 - ①感染臓器、推定起炎菌、抗菌薬開始の有無、抗菌薬選択の妥当性、用法・用量の妥当性のレビューを主科へフィードバック
 - ②菌種や薬剤感受性結果が判明した時点で、抗菌薬変更の容疑、用法・用量の妥当性、カテーテル等のメディカルデバイスの管理方法、必要な検査の確認、提案
 - ③血液培養陰性化の確認、臨床経過や副作用のモニタリング、抗菌薬の投与期間の妥当性の評価
 - ④感染症治療終了までのフォローアップ

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬・向精神薬の使い方（1回、対象：研修医） 2. 2021年度 医療安全管理研修会 「医薬品安全管理に関する情報提供2021」（webによる通年受講、対象：全職員） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（☑・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項 4. 患者に対する与薬や薬剤管理指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係わる情報の取扱いに関する事項 6. 院内特殊製剤の取扱いに関する事項 7. 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関する事項 8. 医薬品安全性情報等の管理体制の充実に係る事項 9. 放射性医薬品の取扱いに関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（☑・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 後縦隔肉腫に対するシスプラチン+エトポシドを用いた放射線化学療法 等 全10件 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>(情報収集の方法 ※未承認等の医薬品の情報その他の情報の収集)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①添付文書情報（医療用医薬品） ②添付文書情報（一般用医薬品） ③注射剤の配合変化 ④緊急安全性情報（イエローレター） ⑤安全性速報（ブルーレター） ⑥医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行） ⑦薬品安全対策通知 ⑧使用上の注意の改訂情報 ⑨厚生労働省発表資料（医薬品等関連） ⑩DSU（医薬品安全対策情報）⑪急性中毒情報ファイル ⑫重篤副作用疾患別対応マニュアル ⑬妊婦授乳婦と薬 ⑭回収情報（医薬品）等を参考とする。 <p>(情報の周知方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学グループウェアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照（MDview） ・ 院内通知文書 ・ DIニュースの発行 ・ 各種勉強会、講習会等 ・ 病棟担当薬剤師により各病棟、診療科のカンファレンス等にて連絡を行う。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 223 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p>全職員、新人看護師、研修医等を対象に、医療機器の使用手法、有効性・安全性、保守点検手法、不具合が生じた際の対応方法等の研修会を行っている。</p> <p>また、新規導入機器に関しては関連する全部署に対し、導入前に仕様及び使用方法に関する研修会を実施し周知を行っている。</p> 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (☑・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 保守点検を適切に実施できるよう予め点検計画を立案し、医療機器管理システム上で予定を管理しながら定期点検、日常点検等を実施している。なお、定期点検の期間については有効性及び安全性が担保される期間を機器毎に設定し実施している。 (1ヶ月、4ヶ月、6ヶ月、1年) - 院内での点検・修理が困難な機器については、メーカーに外部委託し実施している。 - 保守点検実施に関する記録については、機器名、製造番号、点検・修理履歴、次回保守点検予定日等を機器毎にシステム管理している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> 一般的名称：医科用捲綿 製品名：「エンドスワブ」 本来の使用目的である、一般的な薬物塗布、検査及び治療に関する利用ではなく、胸腔鏡下、胸腔鏡補助下呼吸器外科手術における視野の確保、止血等を目的として、院内では当該製品を呼吸器外科領域限定で使用している。 ※ R4年6月高難度新規医療技術審査済 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 医療機器製造販売業者、関連学会、医薬品医療機器総合機構等から収集した安全情報を病院の電子掲示板を用いて、どのPC端末からでも閲覧できるように整備し、情報の周知を図っている。また、緊急を要する内容については、臨床工学技士等が直接関係部署に出向き、現場スタッフに対し説明を行い迅速に情報の周知を行っている。さらに、院内で発生した医療機器に関するインシデント報告に対して、再発防止策を検討し、研修会やリスクマネジメントニュース等で周知を行っている。 - 院内で確認された医療機器の不具合については、医療安全管理担当者等に報告を行い、必要に応じて、医薬品医療機器総合機構に医療機器安全情報として報告を行っている。 - 未承認機器及び適応外使用を行う機器については、医療安全管理部 医療機器安全管理部門にて、院内での使用に関して安全性及び有効性が担保されていることを評価した上で、臨床使用している。 - スタッフの研修用資料として、機器の安全使用に関する動画を作成し、タブレット端末にて貸し出しを行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 <input checked="" type="checkbox"/> (医師)・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 副病院長（医療安全管理担当）を医療安全管理責任者として配置し、その統括の下で、医療安全管理部が中心となり病院全体で組織的・継続的に安全管理に取り組んでいる。 ・ 副病院長（医療安全管理担当）及び医療安全管理委員会委員長は、医療安全管理部長をもって充てることとし、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の構成員として医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を配置している。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (10名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成。 ・ 医療従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施。 ・ 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施。 ・ 医薬品の安全使用のため必要となる情報の収集。 ・ 医薬品の安全確保を目的とした改善のための事例評価と方策の実施。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 添付文書情報（医療用医薬品）、添付文書情報（一般用医薬品）、注射剤の配合変化、緊急安全性情報（イエローレター）、安全性速報（ブルーレター）、医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行）、薬品安全対策通知、使用上の注意の改訂情報、厚生労働省発表資料（医薬品等関連）、DSU（医薬品安全対策情報）、急性中毒情報ファイル、重篤副作用疾患別対応マニュアル、妊婦授乳婦と薬、回収情報（医薬品）等を参考に情報収集を行う。 ・ 病院運営委員会等の各種委員会での報告、全学グループウエアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照（MDview）、院内通知文書、DI ニュースの発行、各種勉強会、講習会等、病棟担当薬剤師より各病棟、診療科のカンファレンス等で情報の周知を行う。 ・ 担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/> (有)・無) ・ 担当者の所属・職種： <p style="margin-left: 40px;">（所属： <u>薬剤部</u> ， 職種 <u>薬剤師</u> ） （所属： ， 職種 ）</p> 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> (有)・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：適宜、診療録の監査の項目で確認している。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>○毎月、退院患者の約1割の診療録等について、同僚間監査を実施し、監査結果を各診療科に報告することにより記載内容の向上を促している。また、監査結果を踏まえ、現状に則した監査を実施するため、評価項目の見直しを行った。</p> <p>○略語について、入力の手簡素化と診療録の記録内容が多職種で理解しやすい環境を構築できるようATOKの略語辞書ファイルを実装しているが、新しい略語や現状に沿った略語に対応するため、見直しを行い略語辞書ファイルの更新を行い、活用を促した。</p> <p>○退院時記録監査を実施し、入院診療計画書、手術記録とその説明同意書、IC記録等について確認し未完成の場合は、作成依頼を実施している。また、同意書や計画書等の署名の確認と保管の必要な書類がスキャンされているかを確認し、未完成の場合は、該当文書の検索と必要に応じて、カルテ記載による補完を依頼している。</p> <p>○説明書同意書監査部会と連携し雑型説明書の説明内容の監査を行っている。説明内容が不十分な場合は、その監査内容とともに改定依頼を行い、作成診療科により改定が実施されている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（14）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 （2）重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。 （3）重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。 （4）医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関すること。 （5）改善策を立案すること。 （6）改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。 （7）安全管理に関する教育・研修に関すること。 （8）安全管理に関する連絡調整に関すること。 （9）高知大学医学部附属病院医療安全管理委員会の事務に関すること。 （10）高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。 （11）未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること。 （12）その他安全管理に関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理部コアメンバーによるチームミーティングを週に1回開催し、各部署から報告のあったインシデント事例に関するモニタリングを行っている。 ・死亡事例個人票を作成して全死亡症例の把握と検証を行っている。さらに、事例の検証結果（医療事故調査制度への該当の有無を含む）を各部署長宛に送付し、双方で確認を行っている。 ・医療安全管理研修会におけるアンケート調査および研修受講後の小テスト実施により医療安全に関する意識の向上を図るとともに、職員の医療安全の認識についてモニタリングを行っている。また、院内ラウンドの際に確認している。 	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・医療安全管理部に新規医療技術安全管理部門を置き、院内における高難度新規医療技術（本院で実施したことの無い医療技術を含む）を用いた医療の実施に関する申請があった場合は、当該部門において実施の適否・使用条件等を確認し、高難度新規医療技術審査委員会に意見を求める。
 - ・部門は、委員会の意見を踏まえて実施の適否、条件等について決定し、その結果を診療科等の長、病院長、医療安全管理部長及び倫理委員会委員長に通知する。
 - ・診療科等から実施報告書が提出された場合には、診療記録の記載内容等を確認して申請内容に基づき適正に実施されていたかどうか確認する。安全性や有効性についても検証し、その結果を病院長及び医療安全管理部長に報告するとともに診療科等の長に通知する。
 - ・高難度新規医療技術を施行した患者については、退院後も長期的なモニタリングを実施する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（11件）、及び許可件数（11件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・医療安全管理部に医薬品安全管理部門及び医療機器安全管理部門を置き、院内における未承認・適応外の医薬品及び医療機器（医療材料を含む）を用いた医療の実施に関する申請があった場合は、当該部門において実施の適否・使用条件等を確認し、高難度新規医療技術審査委員会に意見を求める。
 - ・部門は、委員会の意見を踏まえて実施の適否、条件等について決定し、その結果を診療科等の長、病院長、医療安全管理部長及び倫理委員会委員長に通知する。
 - ・診療科等から実施報告書が提出された場合には、診療記録の記載内容等を確認して申請内容に基づき適正に実施されていたかどうか確認する。安全性や有効性についても検証し、その結果を病院長及び医療安全管理部長に報告するとともに診療科等の長に通知する。
 - ・未承認・適応外の医薬品及び医療機器を用いた医療を施行した患者については、退院後も長期的なモニタリングを実施する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 138 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 164 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・ 報告のあったインシデント及びオカレンスの分析及び影響度レベルの判定に関することを審議する。
 - ・ 判定した影響度レベルが3 b以上のものについて、院内医療問題調査委員会の要否に関することを審議する。
 - ・ インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関することを審議する。
 - ・ デスカンファレンス報告書、オカレンス報告及びM&Mカンファレンス報告書の提出状況を確認する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：鳥取大学医学部附属病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：広島大学病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況

広島大学病院からのピアレビューの医薬品における質問事項「禁忌使用に該当する医薬品の取り扱いについて」、
相互チェックにおける質問事項「未読レポートへの対応について」確認し、回答した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況

平成 15 年 4 月 1 日に「高知医科大学医学部附属病院患者相談窓口取扱要領」を制定するとともに、病院玄関インフォメーションに患者相談コーナーを設けた。その後、平成 15 年 10 月 1 日に旧高知大学との統合及び平成 16 年 4 月 1 日の国立大学の法人化に伴う改廃を経て、現在に至る。

相談コーナーに寄せられた事由に対して必要に応じて看護師、専任リスクマネジャー、医療ソーシャルワーカー、医学部・病院事務部事務職員が単独あるいは複数で対応している。また、相談コーナー以外でも電話、病院ホームページ、投書箱（院内 14 箇所設置）に寄せられた相談等にも対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況
 - ・ 「化学療法による副作用」
 - ・ 「放射線治療における有害事象とその対応」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況
 - ・ 管理者
2021. 11. 22 2021 年度特定機能病院管理者研修
 - ・ 医療安全管理責任者
2021. 12. 8 2021 年度特定機能病院管理者研修
 - ・ 医薬品安全管理責任者
2022. 2. 14 2021 年度特定機能病院管理者研修
 - ・ 医療機器安全管理責任者
2022. 1. 19 2021 年度特定機能病院管理者研修

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・ 第三者による評価の受審状況
 - ・ 外部監査委員会を設置し、年2回以上の委員会を開催している。
(前年度開催日：令和3年7月15日・令和4年3月24日～令和4年3月31日(書面会議))
 - ・ 外部監査委員会は病院と利害関係を有しない学外委員と学長が必要と認めた者から構成されており、任期は2年である。
- ・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
 - ・ 外部監査委員会開催後、速やかに病院ホームページにて監査の結果及び是正措置を講ずべき内容を掲載している。
- ・ 評価を踏まえ講じた措置
 - ・ 前年度の外部監査委員会において、是正・改善を求める指摘事項はなかった。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <p>学識が優れ、教育研究、診療及び病院経営に関する識見を有する者で次に掲げる要件をすべて満たすものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医学部専任担当の教授又は教授予定者（国立大学法人高知大学職員就業規則の適用を受ける教授若しくは教授予定者又は国立大学法人高知大学特任職員就業規則の適用を受ける特任教授若しくは特任教授予定者に限る。）であって、2年の任期を務めることが可能な者 (2) 医師免許を有する者 (3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者 (4) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学HP

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学部附属病院HP 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
辻田 宏	理事（総務・財務 ・企画担当）	○	医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
本家 孝一	理事（研究・評価 ・医療担当）		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
北岡 裕章	医療学系長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第2号に基づく役職指定者	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
菅沼 成文	医学部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第3号に基づく役職指定者	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無

多田 邦子	看護部長（副病院長）		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づく医学部附属病院から選出	有・無
伊東 賢二	医療技術部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づき医学部附属病院から選出	有・無
岡林 弘毅	高知県医師会長 県庁前クリニック 院長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 医学・医療について豊富な経験と高い識見を有し、高知県の医療状況、地域医療についても造詣が深い。	有・無
小野 憲昭	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター病院長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 医学・医療について豊富な経験と高い識見を有し、組織の管理運営、医療安全管理についても造詣が深い。	有・無
中嶋 真琴	高知県健康政策部 副部長		医学部附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく学外有識者 高知県の医療に係る担当副責任者として、保健・医療・福祉全般に豊富な知見を有している。	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院の運営方針に関すること。 (2) 病院の中期目標・中期計画に関すること。 (3) 病院の人事・予算に関すること。 (4) その他委員会が必要と認める事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員用掲示板にて周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学HP ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有 <input checked="" type="checkbox"/> 無) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
花崎 和弘	○	医師	病院長
内田 一茂		医師	診療科長
寺田 典生		医師	診療科長
横山 彰仁		医師	診療科長
小島 研介		医師	診療科長
北岡 裕章		医師	診療科長
大崎 康史		医師	診療科長
佐竹 悠良		医師	診療科長
藤枝 幹也		医師	診療科長
數井 裕光		医師	診療科長
中島 喜美子		医師	診療科長
山上 卓士		医師	診療科長
木村 智樹		医師	診療科長
杉本 健樹		医師	診療科長

三浦 友二郎		医師	診療科長
田村 昌也		医師	診療科長
黒木 知明		医師	診療科長
河野 崇		医師	診療科長
前田 長正		医師	診療科長
池内 昌彦		医師	診療科長
山城 健児		医師	診療科長
兵頭 政光		医師	診療科長
上羽 哲也		医師	診療科長
井上 啓史		医師	診療科長
山本 哲也		歯科医師	診療科長
村上 一郎		医師	診療科長
北岡 智子		医師	診療科長
山岸 由佳		医師	診療科長
西山 謹吾		医師	中央診療施設部長
瀬尾 宏美		医師	中央診療施設部長
高橋 秀俊		医師	中央診療施設部長
小林 道也		医師	中央診療施設部長
杉本 健樹		医師	中央診療施設部長
喜安 克仁		医師	中央診療施設部長
宮村 充彦		薬剤師	薬剤部長
多田 邦子		看護師	看護部長
細田 里南		理学療法士	技士長
北川 博之		医師	手術部副部長
永野 靖典		医師	リハビリテーション部副部長
西田 浩敏		事務職	事務部長
降幡 睦夫		医師	医学部長
藤本 新平		医師	教授
阿波谷 敏英		医師	寄附講座教授
大畠 雅之		医師	特任教授
久米 基彦		医師	医療安全管理部副部長

徳弘 慎治		臨床検査技師	技師長
村上 武		臨床工学技士	技士長
伊東 賢二		診療放射線技師	技師長
山崎 あゆみ		看護師	病院機能強化戦略推進室 副室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
 - ・ 大学HP
- ・ 規程の主な内容
 - ・ 診療科長などの病院の役職者を任命し、また解任することができる。
 - ・ 附属病院の予算責任者として、附属病院の予算の執行について、権限と責任を有する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長5名：各々、総務、医療安全管理、病院実務、地域医療連携を担当
 - ・ 病院機能強化戦略推進室：医学部附属病院における医療及びサービスの質向上や病院機能強化のための戦略・施策の立案及び院内ラウンド等の内部チェックの実施を通じ、医学部附属病院のクオリティマネジメント及び病院機能強化に資することを目的とする。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 経営分析室、地域医療支援室を設置

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査を行う。 ・ 学長又は病院長に対して、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見を表明する。 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 公表の方法：医学部附属病院HPに公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
吉川 清志	土佐希望の家 医療福祉センター 施設長	○	医療に係る安全管理 に関する識見を有す る者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
中西 法貴	中西・高野法律 事務所 弁護士		法律に関する識見を 有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
西脇 永敏	高知工科大学 環境理工学群 教授		学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
井上 正典	社会福祉法人 杉の子会 理事		医療を受ける者その 他の医療従事者以外 の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
瀬尾 宏美	高知大学医学部 附属病院 総合診療部 教授		学長が必要と認めた 者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
 - ・ 医学部附属病院HPに公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
 - ・ 学長を議長とする経営協議会に医学部附属病院長が委員として参加し、附属病院の運営等に関して、委員から意見を聴く機会を設けている。
- ・ 会議体の実施状況（ 年4回 ）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ 年4回 ）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
- ・ 公表の方法
 - ・ 大学HP

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
櫻井 克年	学長	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
辻田 宏	理事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
岩崎 貢三	理事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
本家 孝一	理事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
受田 浩之	理事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
大淵 学	理事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
宮井 千恵	理事		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
花崎 和弘	医学部附属病院長		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
岩瀬 公一	国立研究開発法人科学技術振興機構		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
岡村 昭一	高知県		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
河合 雅司	(一社)人口減少対策総合研究所		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
北 泰子	高知機型工業株式会社		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
中澤 慎二	高知市		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
中島 和代	(株)なかじま企画事務所		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
野並 誠二	医療法人野並会高知病院		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
原 正紀	(株)クオリティ・オブ・ライフ		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
山崎 道生	(一社)高知県工業会		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 医学部附属病院HPに掲載、部署リスクマネージャーを通して周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>高知大学医学部附属病院ホームページ内の「患者さんへ」、「広報活動」、「病院案内」において、情報発信を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>* がん治療センター 複数の診療科で行われている「がん診療」、「緩和ケア」、「外来化学療法」などを一元的に管理し、それぞれの機能が充分発揮されるよう企画調整を行っている。</p> <p>* 内視鏡診療部 各疾患分野で内視鏡を用いた診断と治療を専門に行う部門を独立統括し、各診療科との連携を円滑にすることで、内視鏡を用いた専門的な診断と治療の需要に柔軟に対応している。</p>	